かわべ

発行
河辺村公民館
編集
館報編集委員会
電話 河辺 17番
印刷所 (有) 藤田印刷所
大洲市常磐町 ☎3273番

わたしの基本構想

村長 稲田三温

昨年末の経済不況に伴い、行政のうえにも、やむなく、総需用抑制策を打ち出すこととなり、その影響は、自然弱小であるわれわれの村にも、深刻な問題として現われてきた。

しかし、静かに今日までを反省するとき、この現象は免れざる事態であったとも思われる。

現在最も大切なことは、財産的投資を優先し、最大限の節約を図り、将来の健全財政を堅持することである。

村民各位の、今日までのあたたかいご協力に深く感謝申しあげますとともに、今後、いっそうのご高諭と、ご支援を賜わりますよう念願いたし、わたくしの所信の一端を申しのべてみます。

◉村財源と運営管理

(一)村税

村税は、予算額の三パーセントに足りない現状であるが、今後においても、増収は望めないものと思われる。

(二)地方交付税

算定基礎は国で定められ、諸物価の上昇による、自然増以外は、あまり考えられない。

(三)国、県支出金

へき地対策としての、高率補助制度の確保に重点をおきたい。

(四)村債

補助金と、受益者寄付金のほかは、大部分が起債であり、辺地、過疎等の村に有利な特別債の確保に全力をあげたい。

(五)寄付金

寄付金は、現在の特別債が認められる間は、現状維持で、公共的事業は進めたい。

(六)人事管理

公務員の人件費は近年急増しており、特別事業を除いて、定数増はしない。

(七)職員機構

能率第一主義として、勤勉で努力型の職員養成につとめる。

◉道路橋りょう

(一)県道

五線の県道の逐次改良とあわせて、舗装の早期実現と、惣川～小田線の貫通運動を強く推進する。

(二)村道

各線に改良を要する箇所多く、これが早期実現に努める。

七曲～稲谷線の早期完成を期する。

(三)農道

農地交換分合附帯農道によって、整備は急速に図られている、今後は生活道路と併用の開発を行なう。

(四)林道

公共林道は三線あるが、今年決定をみている横通～百合谷線の早期完成を図る。

(五)橋

多くは、従来の木橋から、永久橋に替えられたが、七曲新橋と、三杯谷橋のかけ替えは、急を要するので実現に努力する。

◉農林業対策

(一)振興山村の指定

今年、二次的な指定を受け、事業計画の策定中であるが、基幹集落センター及び、農作物集出荷所、その他を考えている。

(二)稲作

水田の休耕、及び、転作の奨励によって、減少が心配される。

機械化の利用ができる改田の必要となろう。

(三)畑作

国営総合農地開発も小規模で、新分野の改畑等が望まれるので、土地改良事業の検討が必要である

(四)産物

しいたけ、栗、葉たばこ、養蚕を主産物として、いっそうの近代化施設を図る。

(五)林業構造改善

二次指定を今年受けている。財源の都合で、一部の事業で終らぬよう、配慮したい。

(六)指導体制

長期投資であり、全般的な指導は、農協及び森組に期待し、更に行政指導をともにする。

◉民生福祉と衛生対策

(一)保健衛生

保健所の協力にすがっているが、将来は保健婦を雇用しての予防衛生が望ましい。

(二)診療所

進歩する医療器材も必要であろう。その前に建物の改築を検討したい。

(三)老人対策

診療所とあわせて、老人日だまり所の設置を試みたい。

(四)社会福祉協議会

村民総参加の実現をみているので、専任職員をおいて更に充実を図りたい。

(五)住民生活設計

国及び県の対策に応じ、行政的な相談指導の強化を進めたい。

(六)衛生処理

今年は、ごみ処理施設も完備の見込みであり、これの利用に関する指導を図りたい。

◉教育

(一)小学校

水泳プール、体育館等の必要が叫ばれている。

本村将来の適正規模の統合とあわせて検討してゆきたい。

(二)中学校

施設備品の充実を図りながら、環境整備に努め、学力の向上を期したい。

(三)幼児教育

幼稚園の義務化がいわれているところであり、小学校の統合とあわせて検討することとし、しばらくは現状の保育所で、幼児教育を図りたい。

(四)社会教育

各区ごとに設置している集会所の活用等によって話合う、いなか特有の方式を考えたい。

公民館の充実と活動を図りたい

◉消防と防災

(一)消防団

団員の定数と、編成の問題が検討されているので、今後団員の意見調整を図る。

(二)防災施設

防火用水そうを逐次設置し、初期消火に役立つものにしたい。

山林火災における場合の、適切な防火方法も検討したい。

(三)自然災害

治山、砂防、地すべり等の対策工事は、そのほとんどが国営事業であるから、陳情を重ねながら、危険区域の防災に努める。

(四)道路災害

村営企業の活用によって早期復旧を進める。現在農道用の排土ショベルは有るが、林道用のショベルも購入したい。

◉特別事業と広域行政圏事業

(村営事業)

①国土調査　②マイクロバス運行
③村営企業

(広域組合事業)

①し尿処理施設　②ごみ処理施設
③運動公園　④公民研修センター
⑤観光センター
⑥国営総合農地開発事業
⑦四国西南大規模林業圏開発事業

以上の事業については、適正な活用と運営を図る。本村将来の発展開発に、村民各位の格別なるご配意と、ご協力を重ねてお願いいたし、私の所信の一端といたします。

河辺村人口動態

(S. 50. 7月1日現)

世帯数	642
人口	2,499
男子	1,252
女子	1,247

(S. 45. 10月現)

世帯数	718
人口	2,810

(S. 40. 10月現)

世帯数	756
人口	3,599

―集会所を拠点とした地域づくりを―

村は昭和四十八年を基準年度とし、河辺村総合開発計画に基づいて、コミュニティ活動の拠点となる地区集会所の設置（一区に一集会所）をすすめております。

○四十八年度には、オ三区集会所とオ十四区集会所を整備。

○四十九年度は、オ一区集会所とオ七区集会所が完成。

○五十年度計画されているのは、オ四区とオ十一区です。

また既設の植松分館、山王集会所を合わせると、本年中に八集会所が活動態勢に入ることになり、昭和五十七年度には十四の集会所が整備される計画になっています。

そこで現在の集会所を地区住民の方が大いに利用して、お互いの活動の場にしていただきたいと思います。

集会所は出来たが、年中…錠がかかっていて、せいぜい年に二回～三回の利用程度では、多額の経費を使って建築した価値がなくなります。

では、どのように施設を利用したらよいか二・三参考にあげて見ましょう。

①地区住民が常時、気軽に集会ができる場とする。

②地区内の婦人会、青年団、老人会、子供会等の研修の場とする。

③地区内の生活指導（栄養料理住宅改善）等の場とする。

④農林業全般の進歩的な研修の場とする。

⑤地区内の友交を深める場とする。

地区のみなさんが、健康で豊かな生活をするのには、地区の集会所をどのように利用したらよいか。

方法を考えていただきたいと思います。

現在、集会所を活発に利用している地区を簡単に紹介します

それは、オ三区集会所（三久保、横山地区）で、昭和四十八年度事業として完成しました。

地区住民のみなさんによって備品の補充、所外の植樹などを完了し、七月から十二月まで次のような行事が行なわれました。

○七月四日…老人学級の開催、婦人会、農業改良普及所の協力で、季節料理の試食会を行なう。

○十一月二十日…大洲農業改良普及所による、オ一回農村テレビ主婦学校を開催。

○十一月三十日…オ二回目を開催○十二月十九日…オ三回目を開催○十二月二十五日…農村テレビ主婦学校の閉校式を行なう。終了後、地区老人クラブ、区長、婦人会の話し合いを行ない、この日、婦人グループ（青葉会）が誕生した。

以上のように、集会所の完成をまちかまえて積極的に施設を活用できたことは、地区住民および各種団体の社会教育に対する熱情の現われであり、集会所を社会教育の拠点として活用している好例だと思います。

どうか、施設を休まることなく大いに利用して、地域の人達が健康で、豊かな郷土づくりに役立つよう活用していただきたいと思います。

～ふるさとに望む～

延岡市　富永寿夫

私の住んでいる延岡市は人口十四万の都市でその昔は内藤藩七万石の城下町でもありました。

街の中央にあるお城の跡は、子供の喜ぶ動物や遊び場の施設もあり、春は数百本の桜の下で花見の宴も開かれます。

町を流れる川や周囲の山や海には新鮮な獲物があり私達の食卓を豊かにしてくれます。また、この町には古代の遺跡や先覚者の文化財も沢山遺されています。

城山から各所に見える高い煙突は、旭化成の化学工場群で、この町は工業都市でもあります。

私はこの町に住んで四十年になり、今では多くの知人や友人と愉快に暮らせる私にとっては、住み心地よい生活環境であり、故郷でもあります。

その私に〝ふる里に望むこと〟と言われても、いささか当惑するほかはありません。

〝ふる里に望む〟という意はどのように解釈すべきなのか、私達に何か要求せよ…。つまり、親が子供に「何んでも買ってやるから言ってみよ」とのことなのか、それともふる里改善に名案や要望はないかということなのか、よくわかりません。

私は文化施設とは縁遠い僻地に生れ育ち、自分を開発し発見するのに、社会に出てから多くの時間と努力がいりました。

そのことから考えることの一つは、ふる里にどんな小さな図書館でも、或は少年の文化センターでも、公民館の移動文庫でも、名称や形はどうあれ、せめてわずかな本でも揃えて、それを知識欲が旺盛で感受性の強い少年に解放したらと考えます。

そのわずかな一冊の本の中から、一人の少年が感動し自己を識り、人生の進路を見い出すことができたとしたらそれはふる里の大きな収穫ではないでしょうか。

ほとんどの少年がふる里を出ていく過疎の地に、私の小さな思いつきは不用なことかも知れませんが、もしそのような企画があれば私も応分のお手伝いをさせていただきたいと考えます。

ふる里に
帰り来たりて先づ聞くは
かの城山の時告ぐる鐘

この地の歌人若山牧水はこんな歌を詠んでいます。

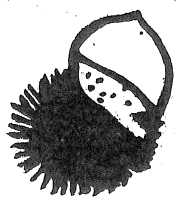
その三百年撞かれてきた城山の鐘が三時を告げるころ、私の社の輪転機はリズミカルな音をたてて動き始めます。地域社会のさまざまなできごとや人間模様を載せた新聞は、きょうも町の家々に配られています。

やねばし

●二日は半夏生である。わたしが子どもの頃、年寄りから「半夏生までモモを食べたらいけんぞ。頭がはげるけん。」とよくいわれたが、内心おどおどしながらもこっそりと食べたものである。頭がハゲルというのは、ハンゲの音に由来することで、科学的な根拠はないようであるが、暦をひもといてみると、「夏至来タリ、一陰生ジ湿陰生ズル時ナレバ病ヲ得ンコトヲ恐ルルトス。ソノ他不浄の事縁談ヲ忌ム。」といましめている。これをみると、時候的に当を得た金言であると思う。●半夏生の頃ともなれば、農家では田植えも終り、豊作を願って餅をつき、団子を作り、お祝いをする風習が昔はあったが、今は影をひそめてきたようである。●さて、半夏生に関係のある野草がある。水辺に生えるドクダミ科のハンゲショウである。丁度、半夏生の頃に白い花をつけるので、こう呼ばれており、ドクダミ（ジュウヤク）に非常によく似ている。又、一説では、葉の半分が白いところから半化粧だともいわれている。昔から、民間では葉を利尿、水腫、脚気に内服されているが、成分は未詳である。

●天文学的な半夏生は、太陽が黄道上を春分点から百度移動した所で、例年七月二日頃となる。この頃ともなれば、梅雨前線の活動もおとろえ、いよいよ本格的な夏がやって来る。このことから梅雨あけともいわれてきた。小笠原気団とオホーツク気団の押し合いも、目下たけなわで、北方勢も容易に敗退しそうにない。昨今の長期予報によると、中旬頃には、南方勢が優勢になるそうであるから、いましばらくの辛抱である。しかし南方勢には、招かざる女性客があるのでご用心を……（H）

あすの農作業



◉七月の水稲の肥培管理

七月の天候は、六月に続いて梅雨前線の活動が活発で大雨のおそれがあり、その後一時、夏のような天候となるが中旬には天候がくずれ、梅雨明けは平年よりやゝ遅れるといわれています。

このような天候下において稲の生育は、今月が米の収量決定要素の穂数確保の時期であり、六月上、中旬に植えたものは七月中旬までに有効茎（葉を二枚以上つけた分けつ数）を確保することが必要です。

そこで次のことに注意しましょう。

㈠水管理

田植後、活着するまではやゝ深水とし、その後三〇～三五日位は浅水とする。

㈡雑草防除

有効茎数の確保後、二・四―Dで防除する。三・四―Dの散布時期が遅れると減収するので、出穂前三〇日までに散布を終るようにする。

散布は二・四―D粒剤一〇アール当たり四kgを使用する。

はじめ、草がかぐれる位、水を張り、後は止水をしておくようにする。

㈢病害虫防除

ニカメ虫一世代の発生時期は平年並、発生量はきわめて少ないと予想されますので、ウンカ、ヨコバイ類を中心にニカメイ虫一世代、ウンカヨコバイ類とあわせて葉イモチ病の同時防除をして下さい。

防除法は、ダイアジノン、キタジンP粒剤を一〇アール当たり、三kgを散布して下さい。

◉栗の管理作業

㈠害虫防除

モモノゴマダラメイがは七月中旬～九月上旬栗園に発生し、収穫時のムシグリとなり商品価値をなくする害虫で、園によっては四～五割の被害が出る園もある。

この防除は七月下旬と八月中、下旬の二回防除が効果的である。

カツラマルカイガラムシの幼虫は六月中旬～七月下旬に発生し、発生から三～四年すると樹を枯らす害虫で、防除はビニフェート乳剤を七月上旬と下旬の二回散布する。ビニフェートはメイガ類にも効果がある。

天牛は近年増加の傾向にあり、八月には虫糞が見られるようになるので見つけしだい捕殺する。

㈡秋肥の施用

秋肥は翌年の花着を良くするために施用されるもので、八月下～九月上旬に十アール当たり、化成三十キロ程度施用する。

㈢イタリアンのは種

除草の省力化のためイタリアン草生が普及しつつある。

八月下旬、草刈後十アール当たり三キロ程度の種子をは種すると良い。（大洲農業改善良普及所）

ふるさとの昔ばなし

力もちの重衛門 (2)

重衛門の方も、足もとがわるいので、少しヒョロドウたが、何のことはない。

立ちなおると、又アギト（アゴ）をけりあげたが、イッカナ動かん。もう、重衛門も我慢ができず、「クソ横着なやつ」とばかり、腰のダンビラを引きぬいて、牛鬼の頸すじ目がけて切りつけた。

が、岩トのような固い牛鬼のくびが切れたのか、突きタッタのか分からんが、そのセに牛鬼は、鼻で息をフットして、立ち上がった。

そして重衛門の方へ、ま向きになって、ドタマ（頭）をふり始め、牛鬼は、一声、二声地鳴りがするような声で、ウドンどったゲナ。いよいよ怪物牛鬼と重衛門との、大格斗が始まった。

重衛門のおらび声、牛鬼のたまらぬウナリ声に、夜、まだふけぬ河辺の一帯は、時ならん大騒ぎとなった。

一方、重衛門の家の者らは、あんまり帰りがおそいので不思議に思い隣りの人らをよび集めて、ほど近い格斗の現場へ向った。ドシタ事ぞと、皆がよってきた現場には、重衛門が持っていた松明がおとされていて、その辺のコッパ（落葉や枯木）に燃え移って、明るかった。

牛鬼と重衛門は盛んに格斗をしておった。

重衛門も牛鬼も、どっちも血みどれになって、切ったり、突いたり、叩いたり、牛鬼も首を左右にふったり、上下に伸ばしたり、さすがの重衛門も、フウフウいい始めて、立っては向こうの様子をみるので、やられてしまうのではないかと、皆心配そうにみよったゲナが、牛鬼は体が太いケンオッケニいごくし重衛門の方はチョット小イゴキするのでノウそのうち重衛門の方も立ちなおってきたゲナ。牛鬼が両前足を上げて、重衛門を踏みシャゴウとするが、これには重衛門もコタネーのけたというカイ。

そのうち重衛門は目ん玉や鼻をネがけて、突いたり、切ったりするので、牛鬼のヤラ所（急所）じゃしのう、牛鬼の方がヤラレ始め、牛鬼がウドンで立ち上がろうとする所を、重衛門が牛鬼の目ん玉をピシャリ、ひやしつけたら、目玉がとび出たというぞナ。……又、立ち上がろうとする所を重衛門が牛鬼の脇の下にモソクリこんでオネ上げ、ブラリ下った牛のキンダマをケツリあげたゲナ、そしたら下の川の方へむけて、マルゲ（転げ）始めて、ゴロン、ゴロン、現在の「牛鬼ん渕」へホロケ（落ち）込んで、ドタマ（頭）だけだしとったゲナ。―次号へつづく―

（話の提供者丸橋渡・高橋武夫さん）

医療費と保険税の動き！

最近、保険税がとび上がるほど上昇して被保険者の皆さんをおどろかしている。

昭和四九年度につづいて、昭和五〇年度は、四五・八パーセントの上昇率となっている。

なぜこんなに保険税があがるのだろうか？

国保係へお願いしてその資料をあさってみた。

医療費七・二倍

国保税三・九倍

まず、昭和四〇年度から、昭和四九年度までの、被保険者一人当りの医療費と保険税の動向をグラフにしてみることにした。

これを見ると、昭和四九年度医療費が急激にあがって、昭和四八年度の約二倍となっている。

昭和四〇年度に比較すると、医療費七・二倍、保険税三・九倍となっている。

これは、昭和四九年の二回にわたる大幅な医療費の値上げ、老人医療費、零歳児医療費の無料化、高額療養費制度等の高福祉施策に起因するものであり、医療費の上昇に比例して、保険税があがるのは当然のなりゆきではあるが、被保険者の皆さんにとってはまことに「シンドイ」話ではある。

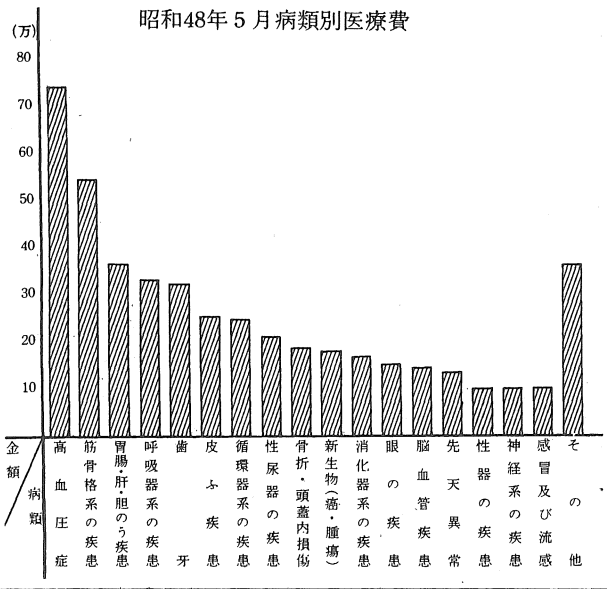
しかしながら医療費に比較すれば、まだまだ辛抱しなければなるまい、「困ったときは、みんなで助けあって」という、相互扶助の精神のもとに発足し、運営されている、この国民健康保険制度を、被保険者の皆さんが、大事に活用し、更にそだてあげてゆくことが大切であろう。

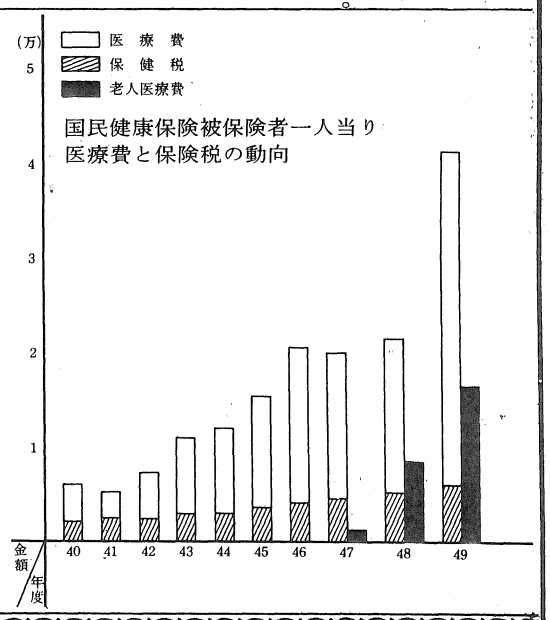
一位は高血圧症

では、どのような病気に医療費が使われているのか、昭和四八年五月の病類別医療費をグラフにしてみた。

一位はやはり高血圧症で、筋骨格系の疾患、胃腸、肝、胆のう疾患とつづいている。

高血圧症はなかなか治りがたい病気だと聞きますが、すべての病気について、まず、自分でよく注意しながら、医師の指導にしたがって養生することが大切であろう。





みんなの広場

―若くしては老人と交り、老いては青年と交れ―

福沢諭吉のこの言葉をよく引用して「若いうちは、できるだけ老人から知恵を吸収し、年をとってからは、できるだけ若いものから精気を吸収し『時代に遅れず、世故に長(た)けよ』の教訓だよ」といった、いわゆる忘年の交りで〝年を忘れ齢（よわい）を超越して、互いに心を、許してつきあうこと〟である。

若いうちは、ともすると老人の哲学や人生観は卑俗であり、俗流化して魅力がないと軽蔑しがちである。

けれども、その一言一句には風雪に耐えぬいた、人間のみがもっている経験の重みがある。

だから、若人たちが老人の言葉に心を恭しくして耳を傾けともすると浮薄になりがちな自己の人生観に重厚さを加えることは、人間形成の上に欠くべからざるポイントである。

一方、老人の方は年齢や経験のギャップを埋めるための多少の努力をしてもらいたい。

そのため〝駒を落してつきあう〟思いやりが必要である。

『尊徳翁夜話』のこんな一節を心にとめていたらどうか。

「交際の道は碁、将棋の道にのっとるをよしとす。それ将棋の道は、強きもの駒をおとして、先の人の力に相応ずる程にしてさすなり。甚だしき違いにいたっては、腹金とか歩三歩というまで外すなり。これ交際上、必要の理なり。

おのれ富み、かつ、才芸あり学問あって、先の人、貧なれば富をはずすべし。　不学ならば学を外すべし。これ将棋をさすの法なり。かくの如くせざれば交際はできぬなり。」

毛沢東でさえも「老中青（老年、中年、青年）の結合」をやかましくいっているから、〝真理は一つ〟ということである。

老人と青年

植松駐在所　中川喜好

芸

訪れる庭に季節の花咲かせ
貧しき老いの生きるたのしみ
とりどりの季節の花咲く前に佗ち
訪問合間のひととき和ごみぬ

関井恵美子

あぶなしと思い黙して見つめいる
溝飛ぶかまえきびしき孫を
友の里訪れ行けば家族みな
くみ交う酒に心暖たむ

山本万亀子

雑草の生い立ち早し庭芝の
手入れ欠かせず梅雨晴れの間に
いたわりつ野良に愛着の鍬をとる
夫のこごとを気にしながらも

関井八重

角材よ全学連よとすごき世に
すく〳〵育つ孫の寝姿

角藤政千代

文

俳句

らん植ゆる石丹念に砕きけり
らんに水やるとき楽し主かな
新装の中学校舎花日和

井本繁男

川柳

サワガこも両手を上げて畦を行く
ひぐらしにせきたてられて里の道
老木に今尚高きせみの声

短歌

上林ヨシ子

消息

自　5月15日
至　7月15日

（出生）おめでとうございます。
三久保　父　隆　玉井純平
中　居　〃　藤利　高橋壽美
上川崎　〃　義徳　岡本通義

（結婚）末ながくお幸せに！
城戸脇好常（稲谷）
竹岡　濱子（内子町）

（死亡）お悔み申し上げます。
大中山　山下国衛（七一才）
百合谷　神山民三郎（七二才）
中大成　玉井サカ（五一才）
日其川　本山マサヨ（七三才）

◎虚礼廃止運動

生活の合理化をはかり葬儀花輪、香典返し、お見舞返しの廃止を〝みんなで推進しましょう〟

河辺村連合婦人会